

まほうのじよば

小学一年 こんどう あかり

「あかりちゃんは、す「いね。」

これは、九十二さいのひいおばあちゃんがよくいう「じよば」です。わたしがようちえんをそつえんしたとき、「じよのだい女子学いん小学」ぶに「じよかくしたとき、うんどうかいでかいかいの「じよば」をいったとき、テストでよいてんをとったとき、いつのときも、

「あかりちゃんは、す「いね。」

といっけてくれます。「じよ」の「じよば」は、まるでまほうの「じよば」のようです。なぜなら、「じよ」もがんばるぞ。「とおもえるからです。

一年まえ、ひいおばあちゃんはあしを「こ」せつして、三かげつぐらいにゆういんしました。そのあいだ、わたしはまほうの「じよば」がきけずさびしかったので、ひいおばあちゃんがげんきになってたいいんしてきたときは、ほんとうにうれしくて、

「おばあちゃんは、す「いね。」

といっけてしまいました。ひいおばあちゃんには「こ」り、そのかおを見てわたしにも「こ」りしてしまいました。

その「じよ」、ひいおばあちゃんはそとにでるときは、くるまいすをつか

うようになりました。さいきんでは、わたしもちからがだんだんついてきたので、

「おばあちゃん、だいじょうぶ？わたしがおしてあげるね。」

といてくるまいすをおしてあげます。ときどき、いきおいがつきすぎてかべにぶつかりそうになり、ひいおばあちゃんに「わいおもいをさせることがあります、それでもひいおばあちゃんはにこにこして、

「あかりちゃんは、すいね。」

といてくれます。わたしは、ひいおばあちゃんといっしょにでかけるのが大すきです。

「おばあちゃん、これからもくるまいすのうんてんがじょうずになるようがんばるね。」